法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方

TAZAWA, Minoru / 田澤, 実

(出版者 / Publisher)
法政大学キャリアデザイン学部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学キャリアデザイン学部紀要 / 法政大学キャリアデザイン学部紀要
(巻 / Volume)
13
(開始ページ / Start Page)
227
(終了ページ / End Page)
251
(発行年 / Year)
2016-03

図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方

法政大学キャリアデザイン学部　准教授　田澤　実

はじめに

本稿の目的は、主に文系の大学生向けに、文献の探し方について紹介することである。

1　問題と目的

（1）問題背景

レポート、卒業論文、修士論文などを執筆する際には、文献の探し方について一定のスキルが必要となる。大学では、図書館の使い方やレポートの書き方を扱う授業で、文献の探し方を学ぶことがある。

たとえば、本学部においては、大学１年生の春学期に「基礎ゼミ」があり、15回の授業の中の１回分を用いて、「図書館ガイダンス」を行う。学生は図書館に出向き、端末を実際に触りながら資料検索やデータベースの活用法について学び、最後に図書館内を見学する。この時、学生は辞書、図書、新聞などの検索方法について学ぶ。

しかし、近年、最新の情報の検索の仕方も変わってきている。図書館のデータベースを活用するだけでなく、他の情報源も含めて検索し、それらを活用できる能力が求められている。また、スマートフォンの普及に代表される情報環境の発達[注1)]も文献を探す上で無視できない。図書館のデータベースには、大学のインターネット接続環境が求められるものが多いが、スマートフォンでも接続可能な情報源は日常的に場所や時間を選ばすに利用できるメリットがあ

る。この点は、近年の大学が重視している授業外での学習時間の増大を狙うためにも重要であるし、総合的な情報リテラシーを身につけるきっかけにもなると思われる。

そこで、本稿では、図書館情報のみならず、スマートフォン等で検索可能な情報源にも注目することにする。

（2）どのような人向けなのか

主に文系の大学生、特に初学者向けに日本語の文献の探し方を紹介することにする。図書館のデータベースには専門分野のものがあるが本稿では扱わない。

なお、本稿では、図書館のデータベースについては法政大学のものを扱う。大学が契約している有料データベースも含まれる。この部分については主に本学の学生向けとなる。また、本稿では、スマートフォン等でも利用可能な情報源についても概観する。そのため、一部の内容については、高校生や社会人であっても検索する技術を高めることにつながるかもしれない。

（3）本稿で用いる記号や書式

本稿では、様々な情報源を紹介する。図書館の有料データベースのように、接続のためには大学内の回線が必要になるものを【大学内】、スマートフォン等のように一般の回線でも接続可能なものを【一般】と表記する。一般に該当するサイトのみURLを示すことにする。なお、情報源の説明については見やすさを重視して、箇条書きとする。

（4）本稿の構成

つづく第２節では、文献の探し方を紹介する前に、辞典や事典のデータベースについて紹介する。第３節では、情報の種類について概観する。ここでは、速報性が重視される情報源と包括性が重視される情報源があることについて触れる。第４節では、速報性の高い情報として、ニュースサイトおよび世間の反応の情報源を紹介する。第５節では包括的な情報として、新聞、一般雑誌、論文、図書、白書の情報源を紹介する。第６節はまとめと今後の課題である。

２　文献を探す前に（辞典や事典で調べる）

文献を探す前には、用語の理解や予備知識が必要になることがある。その時に用いるのが辞典や事典である。

（１）単語の意味を調べる、概要を理解する

一般的に、単語の意味を調べるには辞典を、用語の概要を知るには事典を用いることが多い。特に百科事典は様々な用語の意味、背景や研究の経緯などが短い文章でまとめられていて、概要を理解する際に便利なことがある。

・国語辞書-goo辞書【一般】

http://dictionary.goo.ne.jp/jn

- ➢ 小学館提供の『デジタル大辞泉』を搭載している。
- ➢ 例文や慣用句も同時に調べることができる。
- ➢ 一般的な単語ならば、これひとつでおおよそは調べられる。

・Weblio（ウェブリオ）辞書【一般】

http://www.weblio.jp

- ➢ 専門辞書、国語辞典、百科事典から一度に検索する辞書サイトである。

・ジャパンナレッジLib【大学内】

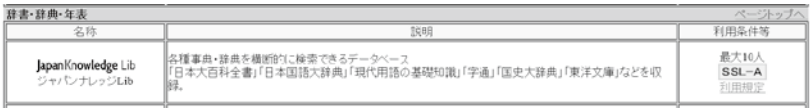
- ➢ 各種事典・辞典を横断的に検索できるデータベースである。「日本大百科全書」「日本国語大辞典」「現代用語の基礎知識」などを収録している。接続は図１の手順で行う。

１）大学図書館の HP（http://www.hosei.ac.jp/library）にアクセス

２）「オンライン・データベース」をクリック

３）ログイン画面で必要事項を入力

４）「ジャパンナレッジLib」をクリック



５）調べたいキーワードを入れて検索

図１　ジャパンナレッジLibの使い方

ところで、「辞典」と「事典」は何が違うのであろうか。さっそくではあるが、「ジャパンナレッジLib」のデータベースを使って「事典」を調べてみると以下のように書かれている。

「物や事柄を表す語を集めて一定の順序に並べて説明した書物をおもにいう。これに対して、ことばや文字をある視点から、たとえば五十音順、漢字の画数順やアルファベット順などに配列して、その読み方や意味などを記した書物を辞典といっている。」

出典：彌吉光長「事典」、『日本大百科全書（ニッポニカ），ジャパンナレッジ（オンラインデータベース）』、小学館（閲覧日:2016年１月７日）

（２）専門分野の用語を調べる

上記までに示してきた辞書は一般的なものが多いため、専門分野の用語を調べるためにはふさわしくないことがある。日常で使われる用語が、特定の専門分野においては違う意味で用いられることは少なくない。

そこで、その用語が、どの学問の用語なのかが分かっている場合は、以下に示すような分野別のリンク集を用いると良い。なお、ここで紹介するもの以外にも図書館のデータベースには専門的なものもある。もちろん、学問分野に応じた紙媒体の辞典等を参照するのも良い。

・ARIADNE（アリアドネ）【一般】

http://www.ariadne.jp

- ➢ 翻訳者の二木麻里氏が運営する学術サイトリンク集である。
- ➢ 人文系の様々な学問に関連したサイトを国内外問わずまとめている。

・翻訳と辞書【一般】

http://www.kotoba.ne.jp

- ➢ プロフェッショナルな翻訳者も利用するサイトである。
- ➢ 様々な分野の用語を調べることが可能である。

３　情報の種類

どのような情報がどのように提供されているのかを知っておくと、文献を検索する際にも有用になることがある。情報の分類方法には様々あるが、井下（2014）は、時系列に注目して分類している。これを参考にしながら筆者が一部加筆や修正を加えたものを図２に示す。

世の中で何か出来事が起こった時には、およそ数分以内に、テレビやラジオで第一報としてニュースが流れる。この時には、まだ内容の分量は少ない。およそ同時期に、ネット上のニュースサイト等でも配信される。そして、数時間程度で、ある程度の内容がまとまったものが報じられる。翌日には、紙媒体の新聞で一定程度の分量で報じられ、数週間後には週刊誌や一般雑誌等が取材した内容が加えられて掲載される。論文や図書が出る場合には、情報がさらに包括的になっていることが期待できるが、これには最低限およそ数か月から１年程度かかる。それ以上の年月がかかることもある。また、白書に掲載される際には、１年から数年かかることがある。これらのうち重要な情報は、加工されて辞典、事典等にまとめられることがある。

このように、図２の左側の情報源は速報性が重視され、右側の情報源は包括性や一定のボリュームが重視される。

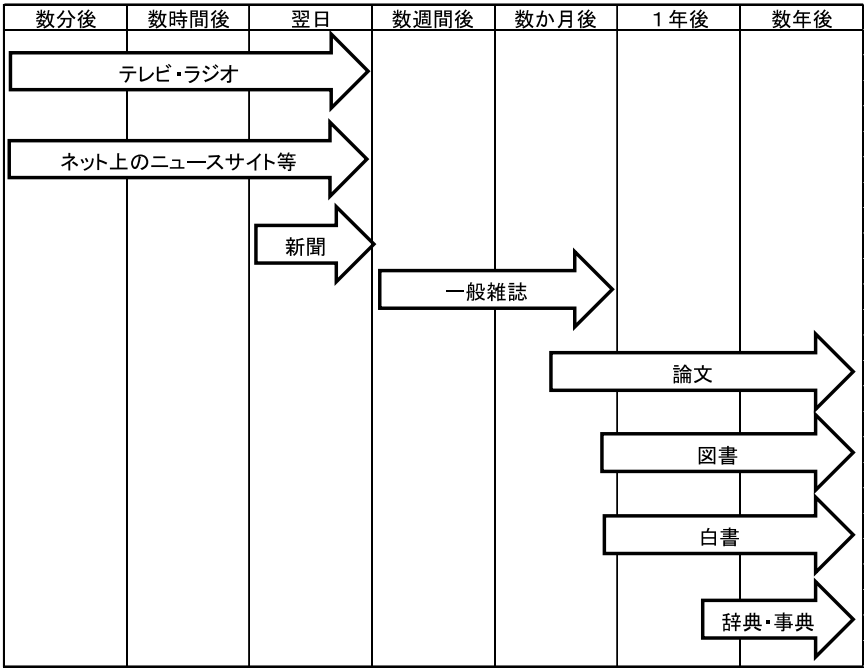


図２　時系列に注目した情報の分類

出典：井下（2014）を参考に一部表現を修正して筆者が作成

4　速報性の高い情報を調べる

（1）ニュースサイト

・Googleニュース【一般】

https://news.google.co.jp

- 世界中のニュース提供元から集約した広範囲にわたる最新記事をリアルタイムに掲載している。
- サイトには現在報じられているニュースの一覧があるが、キーワード検索も可能である。
- なお、定期的に見たいキーワードがあれば「Googleアラート」に登録すると良い。そのキーワードが含まれる情報がWeb上に流れた際に自動的にGmail（注：Googleのフリーメール）に通知される。

（2）世間の反応 注2)

・Yahoo! リアルタイム検索【一般】

http://search.yahoo.co.jp/realtime

- 話題になっているキーワードについてTwitterやFacebookでどのように語られているのかを見ることができる。
- サイトには、ランキング順に並んでいるが、キーワード検索も可能である。
- 話題の記事を「Googleニュース」で探して、その記事について世間ではどのような反応があるのかを「Yahoo! リアルタイム検索」で調べるという方法がある。
- もちろん、一部の人間の発言なので代表性があるわけではない。また、書かれている内容が必ずしも正しいとは限らない。そのような性質があることを承知した上で、自分と同じ意見や反対の意見があるかなどを見てみると良い。

5　包括的な情報を調べる

（1）新聞

新聞の良さは、「速報性」「情報へのアクセスのしやすさ（手に入りやすさ）」

である。図２でも扱ったように、社会的に注目されるような出来事が起きた翌日には、ある程度のボリュームで、かつ、一般の人でも分かりやすいような表現でまとめられていることが多い。また、図書館の図書などとは異なり、貸出中ということがない。基本的には情報へのアクセスはしやすい。

ただし、新聞は「専門性」や「情報の厚み」では、図書、論文、白書には劣る。

①オンラインの新聞記事

以下のサイトで過去の新聞記事等を検索できる。オンラインの新聞は最新の情報をどこからでも得やすいというメリットがある。しかし、過去数か月程度の記事しか残していないことが多いのが難点である。そのため、しばらくしてから読み直そうと思っても記事が消されていることもある。そこで、引用したいと思えるような新聞記事が見つかった際には、以降で紹介する紙媒体の新聞のデータベースで同様の記事を探してみると良い。

・朝日新聞デジタル：朝日新聞社のニュースサイト【一般】

http://www.asahi.com

・毎日新聞のニュース・情報サイト【一般】

http://mainichi.jp

・ニュース速報：読売新聞（YOMIURI ONLINE）【一般】

http://www.yomiuri.co.jp

・日本経済新聞【一般】

http://www.nikkei.com

②紙媒体の新聞記事

・図書館の新聞データベース

上記で紹介した新聞は、大学の図書館にある新聞データベースでも閲覧が可能である。「聞蔵II（きくぞう）」「毎索（マイサク）」「ヨミダス歴史館」「日経

テレコン21」などがある（図３）。

１）大学図書館の HP にアクセス

２）「オンライン・データベース」をクリック

３）ログイン画面で必要事項を入力

４）利用したい新聞データベースをクリック

新聞

名称		説明
聞蔵II ビジュアル 聞蔵II		**朝日新聞・週刊朝日・週刊アエラ** 1984年8月～本日までの朝日新聞記事、1879年の創刊号から1989年までの紙面イメージのほか、週刊朝日・週刊アエラの記事、人物データベースや現代用語辞典、歴史写真が見られます。(推奨環境:Adobe Acrobat Reader 6.0以上)
毎索 マイサク 毎索		**毎日新聞・エコノミスト・Mainichi Daily News** 1987年1月～本日までの毎日新聞記事、1872年の創刊号から1999年までの紙面イメージのほか、毎日新聞社が1945年以降に実施した世論調査のデータを収録しています。 毎索≪ガイダンス用入口≫
ヨミダス歴史館 YOMIDAS REKISHIKAN ヨミダス歴史館		**読売新聞・The Japan News** 1986年9月～昨日までの読売新聞記事のほか、1874(明治7)年から1989年までの読売新聞紙面イメージ、The Japan News、人物情報を検索できます。
日経テレコン 日経テレコン21		**日経各紙** 1975年4月～本日までの日本経済新聞記事、1876(明治9)年の創刊号から1961年までの紙面イメージのほか、日経産業新聞:1975-、日経MJ:1975-、Nikkei Asian Review:1983-の記事や企業情報、調査・データ等が調べられます。

図３　図書館にある新聞データベースの使い方

なお、以下の対応関係がある。

・朝日新聞⇒「聞蔵II」
・毎日新聞⇒「毎索」
・読売新聞⇒「ヨミダス歴史館」
・日本経済新聞⇒「日経テレコン21」

・聞蔵Ⅱ【大学内】

➢ 朝日新聞の新聞記事だけでなく、「週刊朝日」「週刊アエラ」の検索もできる。

・毎索（マイサク）【大学内】

➢ 毎日新聞の新聞記事だけでなく、「週刊エコノミスト」の検索もできる。

・ヨミダス歴史館【大学内】

➢ トップページに下記のような「お薦め連載」がある。

➢ 特定のトピックについて体系的にまとめられていることもある。興味があるものがあれば定期的にチェックすると良い。

〔解説記事〕……基礎からわかる、解説スペシャル
〔就活　仕事〕…就活ON ！
〔教育〕……教育ルネサンス

・日経テレコン21【大学内】

➢ 新聞記事によっては、「類似している記事を読む」「用語解説を読む」「同じ連載・特集の記事を読む」「話題のテーマで検索する」というように、関連した記事の候補が出てくる。これを活用すると紙媒体で行うよりも効率的に関連記事を読むことができる。

（2）一般雑誌

雑誌は一般雑誌と学術雑誌に分類することがある。ここでは一般雑誌を扱う（学術雑誌は「論文」を参照）。

一般雑誌の良さは、「速報性」と「情報の厚み」の両方を一定程度備えている点である。言い換えれば、どちらも中途半端ともいえる。一般雑誌の一部の記事では、あるテーマについて数ページから10ページ程度の分量でまとめていることがあり、これが参考になるときがある。

①複数の雑誌からキーワードで探す

・雑誌の総合情報サイト - 雑誌ネット【一般】

http://www.zassi.net

➢ 最近発行された雑誌にどのような記事があるのかわかる。個々の雑誌の

目次が一覧できるだけでなく、キーワード検索も可能である。

- 新しい雑誌を探したいときには便利である。

・Web OYA-bunko（大宅壮一文庫 記事索引 Web版）【大学内】

- 主な雑誌の記事を検索することができる。
- 独自のデータベースであり、雑誌検索をする上ではかなり役立つ。

・magazine plus【大学内】

- 国内の雑誌記事（学会誌、文芸誌等を含む）が検索できる。
- 論文と一般雑誌の両方を検索したいときには便利である。

②特定の雑誌を指定して検索する

・聞蔵Ⅱ【大学内】※再掲

- 「週刊朝日」「週刊アエラ」の検索もできる。

・毎索（マイサク）【大学内】※再掲

- 「週刊エコノミスト」の検索もできる。

・東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー【大学内】

- 「週刊東洋経済」「会社四季報」など、東洋経済新報社の主要コンテンツを収録している。掲載された誌面のpdfを見ることができる。
- 特に就職活動や企業情報に関連したことを調べるときに使いやすい。

・日経BP記事検索サービス【大学内】

- 「日経ビジネス」「日経ビジネスアソシエ」など、日経BP社の雑誌記事を収録している。掲載された誌面のpdfを見ることができる。

上記のうち、【大学内】となっているものは、大学の図書館のデータベースを用いる。接続は図４の手順で行う。

1）大学図書館の HP にアクセス

2）「オンライン・データベース」をクリック

3）ログイン画面で必要事項を入力

4）利用したい雑誌のデータベースをクリック

和文雑誌		
名称		説明
CiNii CiNii Articles	学術雑誌	雑誌論文データベース 国内の学会誌・大学紀要の論文や雑誌記事が検索できます。全文が読めるものもあります。
magazineplus magazineplus	一般誌 専門誌	国内の雑誌記事(学会誌、文芸誌等を含む)が検索できます。 利用ガイド
ざっさくプラス ざっさくプラス	一般誌 専門誌	明治から現在まで、総合雑誌から地方誌までの雑誌記事が検索できます。 収録期間:明治初期-
Web OYA-bunko Web OYA-bunko	大衆誌	大宅壮一文庫 記事索引 Web版 1988-
JDream III JDreamⅢ	科学技術 医学 心理学	国内外の科学技術の全分野にわたる学会・協会誌(ジャーナル)、論文集等の書誌情報や日本語抄録が網羅的に収録されている。
J-STAGE J-STAGE	学術雑誌	雑誌論文データベース 国内の主に自然科学分野における学会誌・大会予稿集等の論文全文が読めます。
NDL-OPAC NDL-OPAC	学術雑誌	国立国会図書館-雑誌記事索引
KAKEN KAKEN	科研費	科学研究費助成事業データベース 詳細情報
NII-DBR NII-DBR		学術研究データベース・リポジトリ
東洋経済デジタル・コンテンツ・ライブラリー		「週刊東洋経済」「会社四季報」「就職四季報」など、東洋経済新報社の主要コンテンツを収録。掲載誌面をPDFでダウンロード可(一部のコンテンツ・記事は、HTML/テキストファイルでダウンロード可)。
日経BP記事検索サービス	ビジネス コンピュータ 電子・建築 医療他	「日経ビジネス」「日経ビジネスアソシエ」など、日経BP社の雑誌記事を収録。 利用数は、テキスト・PDFのどちらを読んでも加算されます。記事本文はどちらも同じ内容ですので、出来るだけPDFのみ利用してください。また、主要な雑誌については、出来るだけ館内にある「現物」をご覧ください。 「ヒヤシ現象」最近、同一人による「短時間での集中的なアクセス」が見受けられます。法政大学で契約している年間の「利用総数」が「上限」に達すると、次年度まで記事が読めなくなり多くの利用者に影響が出てしまいます。ご注意ください。

図４　図書館にある雑誌のデータベース

（3）論文

論文の良さは、「専門性」と一定のボリュームを持つという意味での「情報の厚み」である。その意味で、図書のメリットに類似している。近年、紙媒体だけではなく、pdfで閲覧可能な論文も増えてきた。多くの人が読みやすいという意味で、「情報へのアクセスのしやすさ（手に入りやすさ)」は、図書よりは高いともいえよう。なお、「速報性」では新聞より劣る。

また、専門分野の論文になると、情報が高度になり読解が難解になることもある。専門分野や統計的な知識を求められることもある。

・CiNii Articles - 日本の論文をさがす【一般】

http://ci.nii.ac.jp

- ➢ CiNii（NII学術情報ナビゲータ[サイニィ]）の論文データベースである（図５）。キーワード検索ができる。
- ➢ 誰でも利用ができるが、大学内のインターネット接続環境のほうがpdfで読める論文が多いことがある。
- ➢ 文献についての情報（巻、号、ページ数など）が見やすいので、引用文献リストを作る時に便利である。

図５　CiNii ArticlesのHP画面

・Google Scholar（グーグル・スカラー）【一般】

http://scholar.google.co.jp

- ➢ 論文や図書などを検索できる。
- ➢ 特に、引用率の高い論文や図書が上位に来るのが特徴である。そのため、まずどの論文や図書から読むべきかわからない時に手掛かりとなることが多い。
- ➢ また、「引用元」の数も同時に出てくる。例として「キャリアデザイン」と検索した画面を示す（図６）。この「引用元」をクリックすると、それを引用している論文等の情報も出てくる（pdfなどで閲覧が可能なときもある）。
- ➢ 通常のGoogle検索はネット上のあらゆる情報を検索対象としているが、

Google Scholarは検索対象を論文、図書等を検索対象としている。すなわち引用できる文献になりそうなものを検索してくれるため、文献探しにはGoogleよりもGoogle Scholarのほうが便利であろう。

図６　Google Scholarで「キャリアデザイン」で検索した時の画面

・J-STAGE【一般】

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja

- ➢　論文を検索できる（図７）。pdfで閲覧できる論文もある。
- ➢　「引用文献リンク機能」がある。

図７　J-STAGEのHP画面

・国立国会図書館サーチ（国立国会図書館）【一般】

http://iss.ndl.go.jp

➢　簡易検索の場合、「記事・論文」を選択して検索する（図８）。

図８　国立国会図書館サーチのHPで「記事・論文」を選択した画面

・magazine plus【大学内】　※再掲

➢　論文と一般雑誌の両方を検索したいときには便利である。

②論文を入手するまでの流れ

論文を入手するには、まずpdfがあるかを確認した後に、紙媒体を探す。入手までの流れの一例を表１に示す。

表１　論文を入手するまでの流れ

１）まず、「CiNii」「Google Scholar」「J-STAGE」で検索して、pdfで閲覧可能か確認する。 ↓ ２）それでもなければ、（読みたい論文がはっきりしている場合）直接、google等で論文タイトル等で検索する。 ↓ ３）すると、CiNiiなどではpdf閲覧可能になっていなくても、サイト上で直接見ることができる論文等もある。 ↓ ４）上記の検索をしてみても、閲覧が不可であれば、図書館で紙媒体の論文・雑誌を「法政大学図書館OPAC」で探す。 ↓ ５）法政大学にその論文がなければ、図書館のレファレンスでコピー取り寄せ（有料）が可能か確認してみる。 ↓ ６）たとえば「文献複写申し込み」では、他の図書館に雑誌や図書に掲載された論文等の複写を依頼し取り寄せることができる（有料）。

上記は、大学の図書館を利用する例であるが、一般向けの方法としては下記等がある

・NDL-OPAC 国立国会図書館 蔵書検索・申込システム【一般】

http://opac.ndl.go.jp

- 論文等の検索ができる（図９）。
- 有料で論文等のコピーを郵送してくれるサービスがある。
- 「遠隔複写サービス」と呼ばれており、国立国会図書館に行かなくても、複写を申し込み、郵送等で論文等のコピーを受け取ることができる。
- サービスには利用者登録が必要となる。

図９　NDL-OPACのHP画面

（4）図書

図書の良さは、「専門性」と一定のボリュームを持つという意味での「情報の厚み」である。例えば、新書などの場合、そのテーマについて初学者でも読みやすく、かつ、一定のボリュームで書いてあることが多い。

ただし、「速報性」「情報へのアクセスのしやすさ（手に入りやすさ）」では、新聞等には劣る。読みたいと思った図書が図書館では借りられているときもある。

①どの図書を読めばいいのかわからない時

調べたい内容によっては、膨大な量の図書の中から読むべきものを探す必要がでてくることがある。そのような場合、以下に紹介するようなサイトを利用して、読むべき図書の情報を集めておくと良い。

・amazon.co.jp【一般】

http://www.amazon.co.jp

- 非常に有名な販売サイトである。しかし、購入せずとも図書を探す目的で用いることが可能である。いくつかの代表的な使い方がある。

a）すでに持っている図書の名前で検索する

- レポート指定図書や自分で良いと思った本などが手元にあり、それに関連した図書を探したい時には、その図書名で検索をする。
- 「この商品を買った人はこんな商品も買っています」というように関連した図書が紹介される。
- amazonでの実際の購入情報をもとに紹介しているため、自分が調べたいことと関連が高いことが多い。
- ここで関連した図書を探し、大学や地元の図書館で借りると良い（もちろん購入しても良い）。

b）キーワードで検索する

- 調べたいキーワードが明確な時にも使ってみると良い。
- 並べ替えの機能もある。「キーワードに関連する商品」だけでなく「レビューの評価順」「最新商品」なども用いてみると良い。

・Google Scholar（グーグル・スカラー）【一般】※再掲

http://scholar.google.co.jp

- 調べたいキーワードが明確な時に使うと良い。
- そのキーワードが載っていて、他の論文等でよく引用されている図書や論文が上位に出てくる。
- まずどの論文や図書から読むべきかわからない時に手掛かりとなることが多い。
- たとえば、教科書に載っている専門用語をもう少し調べるときに用いることがあるだろう。

②　読むべき図書がわかっている時

・法政大学図書館OPAC【一般】

http://opac.lib.hosei.ac.jp/opac

- 法政大学の図書館で探すときに用いる（図10）。
- 探すべき図書のタイトルが分かっている時や、調べたいキーワードが分かっている時に使うと良い。
- なお、実際に行くときにはHP上に掲載されている図書館の開館日程を確認すると良い。
- なお、自分のキャンパスになくても、他キャンパスから取り寄せることも可能である。
- また、「山手線沿線私立大学コンソーシアム」についても調べておくと良い。

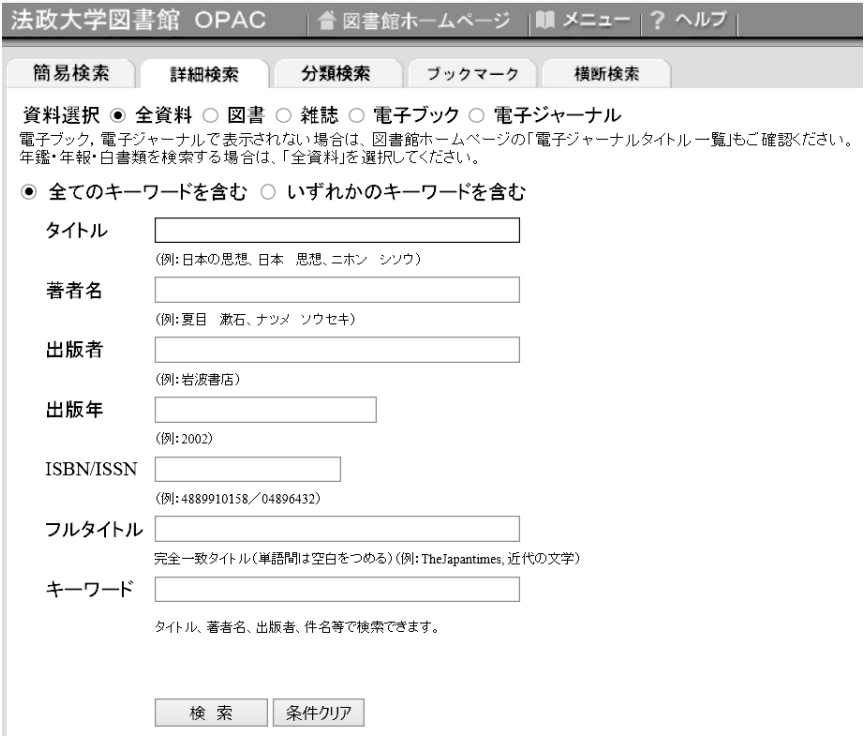


図10　法政大学図書館OPACで「蔵書検索」を開いた時の画面

・カーリル【一般】

http://calil.jp

- ➢ 全国の図書館からリアルタイムの貸出状況を簡単に検索できる。
- ➢ これを使って自分の地元の図書館もチェックしておくと良い。

（5）白書

白書の良さは、政府が扱っているという意味での「情報の信頼性の高さ」と一定のボリュームがあるという意味での「情報の厚み」である。また、近年の白書等はほとんどがインターネット上でどこからでも読めるという意味で、「情報へのアクセスのしやすさ（手に入りやすさ）」が非常に高いといえる。一

方で、白書のみのデータで、何か新しいことを見出していくことは困難であることがある。その場合は、図書や論文等からの情報も探した方が良いことが多い。

①どの白書を読むべきか分からないとき

・首相官邸 白書（年次報告書）【一般】

http://www.kantei.go.jp/jp/hakusyo

- ➢ 最新の白書等の一覧がある（図11）。
- ➢ とにかく新しい白書にはどのようなものがあるのか見たいときには便利である。

図11　首相官邸のHPから「資料集」を選択した時の画面

・電子政府の総合窓口 e-Gov（イーガブ）【一般】

http://www.e-gov.go.jp

- ➢ 全府省および独立行政法人等のホームページの掲載情報を横断的に検索できる（図12）。
- ➢ どの府省が関連するのか分からないときには一度これでキーワードを入れて検索すると良い。
- ➢ 年度が古いデータが出てくることもあるので、読むべき白書がわかったら、その最新年度のものも読んでみると良い。

図12　e-GovのHP画面

・社会実情データ図録【一般】

http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa

- ➢ 官庁・国際機関等の公表データを用いたグラフが豊富である。社会経済の実情を把握するのに便利である。
- ➢ ただし、年度が数年遅れている図もあるので、気になるデータがあれば、その出典を見て、自分で最新版を探して、図を作る訓練をすると良い。
- ➢ たとえば、平成22年度の学校基本調査のデータを用いたグラフが作られていれば、最新の年度の学校基本調査を自分で文部科学省のHPから探して、最新データに更新した図を作るということである。

・政府統計の総合窓口（e-Stat）【一般】

http://www.e-stat.go.jp

- ➢ 各府省が公表する統計データの検索ができる（図13）。
- ➢ 様々な統計表をpdfだけでなく、Excelの形式でダウンロードすることもできる。
- ➢ 自分が使いたい統計データをExcelで編集して図を自作することも可能である。
- ➢ 「e-Stat活用術」などのように統計データを探す方法を様々に紹介している。

図13　e-StatのHP画面

②どの白書を読むべきか分かっているとき

上記で紹介した方法を使ってみると、どの白書を読むべきかわかることがある。あとは、その白書を発行している各府省のHPを見てみて、その白書の名前で検索すると良い。例として文部科学省のHP画面を示す（図14）。検索ウィンドウがあるのがわかる。

また、最新の白書や報告などはトップページにリンクが張られている時もある。

図14　文部科学省のHP画面

③　白書にはどう慣れていくべきか？

自分が欲しいデータが、どんな白書や政府刊行物に掲載されているかを知ることはなかなか難しい。慣れるまでが大変である。そこで、新聞や新書等を読む習慣をつくり、「文部科学省の報告によれば～」や「～ということが厚生労働省の調査で分かった。」等の記述が出てきた際に、そのHPに行って、記事の元になっているデータ（白書等）を探すと良い。これをしばらく続けているとだんだん理解できるようになる。また、図書館等には、印刷された最新の白書が置いてあることがある。インターネットだけでなく、冊子でも読んでみると良い。

6　おわりに

本稿では、主に文系の大学生、特に初学者向けに日本語の文献の探し方を紹介した。図書館情報のみならず、スマートフォンなどでも検索可能な情報源も合わせて紹介した。

なお、近年ではスマートフォン向けの様々な専用アプリが開発されつつある。これらも含めた文献の探し方をまとめることは今後の課題としたい。

注１）近年の学生のスマートフォン保有率は94.9％とかなり高い水準にまできている（マイナビ, 2015）。

注２）当然のことながら、「世間の反応」は文献ではない。そのため、基本的には引用に用いることもない。しかしながら、速報性の高いニュースに注目した場合、ニュースの事実内容だけでなく、そのニュースに対する世間の反応を知りたいこともあるであろう。そこで、本稿では他の情報源と同様に紹介することにした。

［引用文献］

井下千以子 2014『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第２版）』慶應義塾大学出版会

マイナビ 2015「2016年卒 マイナビ大学生のライフスタイル調査」

［参考文献］

伊藤民雄 2013『インターネットで文献探索 2013年版』日本図書館協会.

大串夏身 2006『チャート式情報アクセスガイド』青弓社.

大串夏身 2013『調べるって楽しい!―インターネットに情報源を探す』青弓社.

［参考URL］

大阪府立中之島図書館 ビジネス支援サービス
https://www.library.pref.osaka.jp/site/business

東京都立図書館_テーマ別に調べるには　－『知っていると便利』シリーズ－
http://www.library.metro.tokyo.jp/reference/benri_series/tabid/362/Default.aspx

ABSTRACT

Techniques for searching documents using both library information and smartphones

Minoru TAZAWA

Techniques for searching Japanese documents using not only library databases, but also information provided through smartphones, among others are reviewed. The main target of this article was university students majoring in the humanities. Results identified the following issues. Firstly, classifying different information sources from the perspective of time considerations indicated two types of information sources: sources that needed to provide current, and sources that needed to provide comprehensive information. Secondly, advantages and disadvantages of newspapers, journals, theses, books, and white papers are identified. Thirdly, techniques for searching documents using these information sources are introduced.